

卓越大学院プログラム 令和元年度プログラム実施状況報告書

採択年度	令和元年度	整理番号	1902
機関名	千葉大学	全体責任者（学長）	徳久 剛史
プログラム責任者	山田 賢	プログラムコーディネーター	米村 千代
プログラム名称	アジアユーラシア・グローバルリーダー養成のための臨床人文学教育プログラム		

<プログラム進捗状況概要>

1. プログラムの目的・大学の改革構想

(プログラムの目的)

人文社会科学、とりわけ人文科学における大学院教育は、これまでは往々にして深い専門性の探求に基づく研究者養成のみに特化し、激動する現代社会の諸課題に柔軟に対応するためのイノベーション人材養成を中核的な課題として取り上げては来なかった。しかしながら、これまで以上に多様な背景を持った人々がグローバルに流動、接触し、それとともに発生する摩擦や軋轢もより複雑化しつつある現代世界において、むしろ多様な文化的背景や感性、変動する社会動態に分け入りながら、その中から課題解決の指針を示し、リーダーシップを発揮していくための新しい人文的学知はいまこそ必要である。社会実装に架橋するための人文的学知の刷新はただちに果たされるべきであり、本プログラムでは、人文科学の発想を基礎に据えながら、進化した Digital Humanities の方法を融合し、人間社会における未知の事態に対して指針を示し得る、刷新された人文的学知 Humanities Innovation に基づく大学院教育プログラムを臨床人文学という概念で位置づけることにする。本プログラムはかかる省察・構想に立脚しながら、現代社会の課題に対して、しなやかな文化的想像力と文理融合的な俯瞰的学知に基づいて多様な存在と協働し、ダイバーシティ社会を主導していくトップマネジメント人材を養成する。（調書 P. 5）

(大学の改革構想)

学長のリーダーシップのもとに、現在における改革構想を千葉大学Visionとしてまとめている。本申請プログラムが同Vision に緊密に関わる点を示せば、以下の通りである。

Global：千葉大学では国際社会で活躍できる次世代型人材の育成を重要な教育目標として定めている。具体的には、スーパーグローバル大学創成支援事業の確実な推進、全学の国際化教育を牽引するパイロット学部としての国際教養学部の新設、全学的司令塔としての国際未来教育基幹の創設による世界水準の教育実践、その一環としての海外キャンパス（「千葉大学バンコク・キャンパス」）の設置などを通じた人材育成を実践している。

Research：千葉大学では、人文社会科学系・自然科学系・生命科学系の大きな三つの学問領域が、それぞれ独創的で高度な研究拠点を有する「トリプル ピーク チャレンジ」（研究三峰）を実現すべく、戦略的研究支援を行っている。一方それと同時に、それら「三峰」を横断的に貫く文理の枠を超えた融合型研究を推進しており、全学から分野を超えて糾合されたAI 研究会も、「千葉大学モデル」データサイエンス教育も、将来の融合を見据えた戦略的基盤整備である。

Innovation：産学連携の強化、研究成果の社会実装を強力に推進する。平成29年度には9社に及ぶ企業と包括的連携協定を結んでいる。

本申請プログラムは、以上のような千葉大学のVision を継承し発展させるものとして位置づけられる。

国際教養学部の新設、派遣留学生数の国立大学トップ（平成 23、24、25、26、28 年度）など、主として学士課程教育については、国際化教育は顕著な成果を上げている。次のステップは、国際未来教育基幹を司令塔としながら、全学の大学院教育にその成果を持ち上げて、大学院教育課程の中に高度グローバル人材育成のための共通の仕組みをビルトインすることである。また、本年度より、文理大学院を横断的に貫く「大学院共通教育」の中に「データサイエンス」科目を設置したが、これもまた高大接続から学部教育にまで一貫するデータサイエンス教育を、大学院教育に相応しい文理学融的高度教養教育として位置づけていく試みである。

以上のように、本申請プログラムは、千葉大学全体の改革を構想するVisionに寄り添うものでありながら、そこで試されたパイロットプログラムを、再び全学の文理融合的研究構想、横断的大学院改革構想に向けてフィードバックし、波及的に拡張していく起点としても機能する。（調書P.20）

2. プログラムの進捗状況

令和2年度の学生受け入れに向けて、文系大学院生がデータサイエンスを自律的に学習するための臨床人文学教育研究室、その成果を全学大学院教育に波及させるための教育学習支援拠点（リサーチコモンズ）、ならびに国内外連携機関に向けてスマートラーニング・遠隔授業を行うためのデータサイエンス教育拠点を整備した。また、元年度3月には中国でのキックオフシンポジウムを予定していたが、状況の許すところではなくなったため、これに代わってオンラインによる連携機関参加ミーティングを実施した。

【令和元年度実績：大学院教育全体の改革への取組状況】

・本事業を通じた大学院教育全体の改革への取組状況、及び次年度以降の見通しについて

本学では、令和2年度より、いずれの研究科・学府にも所属しない、学際的・学融的な教育課程として「学位プログラム（研究科等連係課程実施基本組織）」（博士前期課程）を設置した。これは、文・理いずれかの特定のディシプリンに帰属するわけではなく、学際的・学融的な手法に基づく問題解決型の教育課程であり、本卓越大学院プログラムは、人文公共学府に基礎を置きながら、当該「学位プログラム」からも履修者を受入れることを決めている。本学は、大学全体で漸進的に学位プログラム化を進めることを予定しており、本卓越大学院プログラムは、それら学位プログラムにもウイングを広げながら、人文社会系大学院教育を超えて、広く全学大学院教育への波及を目指している。